

特定自主検査記録表改訂についてのお知らせ

1. 建設業に係る特定特殊自動車排出ガスの排出の抑制を図るために指針の検査項目を組みました。(以下「改訂記録表」。)

1) 改訂例

特定自主検査記録表															
3年間保存			監査番号		年月日		様式SR-EHC-01-B								
建設業に係る特定特殊自動車排出ガスの排出の抑制を図るために指針に基づく検査共用															
メーカー名	管理番号	使用者住所 氏名又は名称													
型式	性能	機械管理者氏名													
製造・車両番号	アワメーター	h													
検査実施場所			検査業者登録番号												
検査年月日	年月日	検査者 氏名	責任者名												
区分	No.	検査箇所	検査内容			検査方法	判定結果	備考							
工 業 シ ン ジ ン	1	本体	a 振動性	かかり具合、異音、予燃焼・ピッターの作動			目視、操作、聴診								
			b 回転の状態	アクセルの作動、回転具合			目視、操作、聴診								
			c 排気の状態	アイドリング回転(min^{-1})、無負荷最高回転(min^{-1})			回転計								
			d エアクリーナー	排気色、排気量、マフラー等のガス流れ			目視、操作、聴診								
			e ブルホーン	ケースの音量・変形・損傷、エレメントの汚れ・損傷、油量			目視、操作								
			f 鋼管	シリンダーヘッド、マニホールド鋼管材質・トルク・ナットの締み			トルクレンチ								
			g 鋼管外径(最大 mm-最小 mm)	(倍率大 mm-倍率小 mm)			シャッタネスゲージ								
			h 正側圧力(DPa)	1	2	3	4	5	6	正側圧力計					
			i 噴射圧力(MPa)	1	2	3	4	5	6	ノズルテスター					
			j 噴霧状態	1	2	3	4	5	6	目視、ノズルテスター					
k 連続運転	異常振動、異音、ガス漏れ、潤滑油漏れ			目視、操作											
l エンジンマウント	ブリケットのき裂・変形、絞み・脱落、防振ゴムの損傷・劣化			目視、レンチ等											
2	潤滑装置	*	油量、汚れ、油漏れ、エレメントの汚れ・損傷			目視									
3	燃料装置	*	燃料漏れ、ホースの損傷・劣化、エレメントの汚れ・漏れ			目視									
4	冷却装置	*	水漏れ、水漏れ、目詰まり、ホース損傷・劣化、ラジエーター・パルプ被膜・損傷、ベルト(たわみ、車輢、張力)、ファン・カバー・ダクト等のモビリティ、振動・変形・取付			目視、触診、スケール									
5	電気装置	*	充電装置被膜、バッテリー被膜、端子詰み・腐食、配線詰み・損傷			目視、触診、電流电压計									
6	エアコンプレッサー	*	漏れ、異常振動、エア漏れ、油漏れ、タンク内漏水、作動			目視、操作、聴診、圧力計									
7															
指針の検査項目を表示しました。															
機器 又は 部品		一酸化炭素等異臭防止装置 漏洩等の詰み・損傷、計測回復度合若しくは回復履歴の回復履歴・損傷、排ガス 漏洩等のホース・パイプの詰み・損傷													
指針の検査項目説明を表示しました。															
備考	1. 検査の結果、異常のないものは、検査結果欄の真に、また異常なものは不良の欄に「✓」印の記号を記載する。 2. 検査結果が異常なものについては、検査内容、検査方法の欄項目を○で囲む。 3. 検査内容に○印が付けられた項目は、測定機能が付いたれば検査を省略できる。省略した場合は○印を○で囲む。 4. 検査の結果、補修を行った場合は、測定内容欄に△印を使って記載する。また補修内容等の詳細説明を要するものについては、補修等の措置内容欄に記載する。 5. ★印は「実測法」と「建設業に係る特定特殊自動車排出ガスの抑制を図るために指針」との共通検査項目であり、★★印は同指針のみの検査項目である。						記号	交換	修理	調整	付替	清掃	給油	水	該当なし
		X	△	A	T	C	L	-							

(不許複数)

(社)建設機械車両安全技術協会作成

2. 建設機械と荷役運搬機械(内燃機関式)の記録表の一部を共通化しました。

1) 改訂前記録表例

[改訂前車両系建設機械特定自主検査記録表エンジン部]

区分	No.	検査箇所	検査内容	検査方法	判定結果 良 不良	備考	
エンジン	a	本体	かみり具合、異音、予熱栓作動、アクセルペダル・レバーの作動 ガス漏れ、水漏れ、排水栓、排水栓の開閉、ドレン栓の開閉	目視、聴診、操作			
	b		排気色、排気音、排気管・マフラー等のガス漏れ	目視、聴診			
	c		アイドリング回転速度(min ⁻¹)、無負荷最高回転速度(min ⁻¹)	回転計			
	d		エアクリーナーの状態、底面、縫み、汚れ、腐食、塗装	目視、触診			
	e		シリングヘッド・ミニホールド溶付けボルト・ナットの締み	トルクレンチ			
	f		弁すき間(弁差大 mm・弁差小 mm) (弁差大 mm・弁差小 mm)	シックネスゲージ			
	g		圧縮圧力 (MPa)	圧縮圧力計			
	h		噴射圧力 (MPa)	ノズルテスター			
	i		噴霧状態 (AOC 不X)	目視、ノズルテスター			
	j		ターボチャージャー(異常運動、異音、ガス漏れ)	目視、聴診			
k		マウント(走行、変形、取付、ゴム損傷・劣化)	目視、レンチ等				
2		潤滑装置	油量・潤滑油漏れ、モエレメントの汚れ・破損	目視			
3		燃料装置	燃料漏れ、ホースの損傷・老朽化、モエレメントの汚れ・破損	目視			
4		冷却装置	水温・冷却液漏れ、冷却塔・ポンプ、ベルト(走行・摩擦・摩耗)、冷却液付着	目視、スケール、温度計			
5		電気装置	充電装置、バッテリー液量・端子接続、端子接続・腐食	目視、比重計、電池電圧計			
6		エアコンプレッサー	直管、共振、エア漏れ、油漏れ、タンク内漏れ、作動	目視、聴診、圧力計、操作			
7							

記号・番号が共通ではない 例: 日本語と英語等 例: 名称が違う等 例: 操作が最後なのは不自然

区分	No.	検査箇所	検査内容	検査方法	判定結果 良 不良	備考	
エンジン	1	本体	かみり具合、異音、予熱栓の作動、アクセルペダルの作動 ガス漏れ、水漏れ、排水栓、排水栓の開閉、ドレン栓の開閉	目視、聴診、操作			
	2	IDM	合、排気色、排気音、排ガス漏れ	目視、聴診			
	3		アイドリング回転速度(min ⁻¹)、無負荷最高回転速度(min ⁻¹)	回転計			
	4		エアクリーナーの状態、底面、縫み、汚れ、腐食、塗装	目視、触診			
	5		シリンダーヘッド・ミニホールド溶付けボルト・ナットの締み	トルクレンチ			
	6		弁すき間(弁差大 mm・弁差小 mm) (弁差大 mm・弁差小 mm)	シックネスゲージ			
	7		圧縮圧力 (MPa)	圧縮圧力計			
	8		噴射圧力 (MPa)	ノズルテスター			
	9		噴霧状態 (AOC 不X)	目視、ノズルテスター			
	10		異常運動、異音、ガス漏れ	目視、聴診			
	11		ブリケットの目詰・変形、縫み、脱脂、防錆ゴムの損傷・劣化	目視、レンチ等			
	12		油漏れ、汚れ、油漏れ、モエレメントの汚れ・損傷	目視、触診			
	13		燃料漏れ、ホース及びパイプの損傷・老化、リフィルターの汚れ・損傷	目視、触診			
	14		ガス漏れ、導管のき裂・損傷、ポンベ取付け金具の締み・損傷	目視、触知感、レンチ等			
	15		バルブの作動、配管の跡まり・損傷	目視、触診			
	16		水漏れ、汚れ、ホースの損傷・老化、リジエーターキャップの損傷	目視、触診			
	17		ベルトのたわみ・走耗、損傷、ファン・カバーのき裂・変形・縫み	目視、触診			
	18		キャップのき裂、コードの損傷・ほめ込み、ポイントのすき間・隙間	目視、触診			
	19		プラグの被損・被損、Tユニットの締み・損傷、点火時期の適否	目視、レンチ等、タイミングライト			
	20		充電の遮断、バッテリー液量・端子の締み・隙間、配線の締み・損傷	目視、触診、レンチ等			

[改訂前フォークリフト特定自主検査記録表エンジン部]

2) 改訂記録表例

特定自主検査記録表

[改訂車両系建設機械・荷役運搬機械特定自主検査記録表エンジン部]

区分	No.	検査箇所	検査内容	検査方法	検査結果 良 不 良	備考内容
エンジン	1	本体	a 動力性 ※ガス漏れ、水漏れが認められない場合は、この検査を省略して下さい。	目視、操作、聴診		
		b 開閉の状態	アクセルの作動、開閉具合	目視、操作、聴診		
		c 排気の状態	アイドリング回数(min ⁻¹)、排気筒最高温度(min ⁻¹)	間欠計		
		d エアクリーナー	排気色、音響、排気管・マフラー等のガス漏れ	目視、操作、聴診		
		e 油付け	ケースの油量、変形、漏れ、エレメントの汚れ、振幅、油量	目視、操作、聴診		
		f 灰すき間	シリンダーヘッド、マニホールド等付ボルト・ナットの締み	トルクレンチ		
		g 壓縮圧力	灰すき間(吸量 mm~量小 mm)(供給量 mm~量小 mm)	シックネスメータ		
		h 噴射圧力	圧縮圧力(MPa)	圧縮圧力計		
		i 噴霧状態	噴射圧力(MPa)	ノズルテスター		
		j 通給器	噴霧状態 NO-OK	目視、ノズルテスター		
		k エンジンマウント	異常振動、異音、ガス漏れ、潤滑油漏れ ブラケットの締め・底 締み、脱着、防振ゴムの鋼板・劣化	目視、聴診		

例: 名称を共通させました。

エンジンNo.1を共通にしました。

例: 指針に合わせました。

例: 操作を目視の次に持つてきました。

* 詳しくは、特定自主検査記録表の記入要領 TC-ZC-02-I をご覧ください。

3. 特定特殊自動車排出ガスの排出の抑制を図るための指針とは？

1) 検査時期、対象者及び対象機械は下記の通りです。

検査時期	一年以内ごとに1回	
対象者	建設業を営む者	建設業法第2条第2項に規程する建設業を営む者です。
対象機械	特定特殊自動車	法の施行前に製作された特定特殊自動車も対象です。

2) 実施事項としては次の3項目です。

- ① 適正な燃料の使用
- ② 点検整備の実施
- ③ 排出ガスの排出量を少なくする運転・使用及び特定特殊自動車の選定

3) 点検整備の内容 別表(1-1-1-2)参照

4) 検査の実施資格

- ① 該当機械の特定自主検査有資格者
- ② 該当機械の特定自主検査検査業者
- ③ 自動車整備士技能検定1級、2級又は3級の合格者
- ④ その他資格者

5) 検査結果の記録・保存

- ① 3年間保存
- ② 定期検査の記録事項

ア) 検査年月日
イ) 検査方法
ウ) 検査箇所
エ) 検査結果
オ) 検査を実施した者の氏名
カ) 検査結果に基づいて補修等の措置を講じたときは、その内容

別表-1-1

検査項目	検査方法		年次点検	日常点検
本体	始動性	エンジンのかかり具合及び異音の有無を調べる。	○	○
		予熱栓がある場合は、作動の適否を調べる。	○	
	回転の状態	アイドリング時及び無負荷最高回転時の回転数を調べる。	○	○
		エンジンを加速したとき、アクセルペダル又はレバーの引っ掛けり、エンジン停止及びノッキングの有無を調べる。	○	○
	排気の状態	エンジンを十分に暖機した状態で、アイドリング時から高速回転時までの排気色及び排気音の異常の有無を調べる。	○	
		<ul style="list-style-type: none"> ・ エグゾースト・パイプ及びマフラーの取付部、接続部に緩みがないかを手で揺するなどして点検する。 ・ エンジンを始動し、接続部などより排気ガスが漏れていないかを点検する。 	○	
		<p>特定原動機（一酸化炭素等発散防止装置）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 触媒などの排出ガス減少装置本体の取付けに緩みがないかをスパナなどにより点検する。 ・ 触媒体本体に損傷がないかを目視などにより点検する。 (遮熱板に変形や損傷がなければ、この点検を省略できる。) ・ 排気温度警告装置の配線の取付けに異状がないかを目視などにより点検する。 ・ 排出ガス減少装置のホース及びパイプに損傷、外れなどがないかを目視などにより点検する。 	○	
	エアクリーナー	ケースのき裂、変形及びふた部、接続管等の緩みの有無を調べる。	○	
		エレメントの汚れ及び損傷の有無を調べる。	○	
		油量及び油の汚れの有無を調べる。[オイルバス式]	○	
	締付け	シリンダ・ヘッド及びマニホールド各部の締付け部のボルト及びナットの緩みの有無を調べる。 ただし、これらの部分からガス漏れ又は水漏れが認められない場合は、この検査を省略してもよい。	○	
	弁すき間	弁すき間を調べる。 ただし、弁すき間の異常による異音がなく、エンジンが円滑に回転している場合は、この検査を省略してもよい。	○	
	圧縮圧力	圧縮圧力を調べる。 ただし、アイドリング時及び加速時の回転状態並びに排気の状態に異常がない場合は、この検査を省略してもよい。	○	
	過給機	アイドリング時から高速回転時までの異常振動及び異音の有無を調べる。	○	
		本体及び吸排気管接続部等からのガス漏れの有無を調べる。	○	
		<p>エンジンマウント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ブラケットのき裂及び変形の有無を調べる。 ・ 取付けボルト及びナットの緩み及び脱落の有無を調べる。 ・ 防振ゴムの損傷及び劣化の有無を調べる。 	○	

別表-1-2

潤滑装置	オイルパン内の油量及び油の汚れの有無を調べる。	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
	ヘッドカバー、オイルパン、パイプ等からの油漏れの有無を調べる。	<input type="checkbox"/>	
	エレメントの汚れ及び損傷の有無を調べる。 ただし、カートリッジ式でメーカー指定の時間管理を行っている場合は、この検査を省略してもよい。	<input type="checkbox"/>	
燃料装置	燃料タンク、噴射ポンプ、ホース、パイプ等からの燃料漏れの有無を調べる。	<input type="checkbox"/>	
	燃料ホースの損傷及び老化の有無を調べる。	<input type="checkbox"/>	
	燃料フィルターエレメントの汚れ及び目詰まりの有無を調べる。 ただし、カートリッジ式のものは、この検査を省略してもよい。	<input type="checkbox"/>	
	噴射ノズルの噴射圧力及び噴霧状態の異常の有無を調べる。 ただし、アイドリング時及び加速時の回転状態並びに排気の状態に異常がない場合は、この検査を省略してもよい。	<input type="checkbox"/>	
冷却装置	冷却水の量及び汚れの有無を調べる。	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
	ラジエーター、エンジン本体、ウォーターポンプ、ホース等からの水漏れの有無及びラジエーターのフィンの目詰まりの有無を調べる。	<input type="checkbox"/>	
	ホースの損傷、ひび割れ及び老化の有無を調べる。	<input type="checkbox"/>	
	ラジエーターキャップのバルブ機能の適否を調べる。	<input type="checkbox"/>	
	ラジエーターキャップのバルブシート面の損傷の有無を調べる。	<input type="checkbox"/>	
	ファンベルトのたわみを調べる。	<input type="checkbox"/>	
	ベルトの摩耗及び損傷の有無を調べる。	<input type="checkbox"/>	
	冷却ファン、カバー、ダクト等のき裂、損傷及び変形の有無を調べる。	<input type="checkbox"/>	
	冷却ファン、カバー等の各取付けボルト及びナットの緩みの有無を調べる。	<input type="checkbox"/>	
電気装置	充電装置	電流計及び充電表示灯によって機能の適否を調べる。	<input type="checkbox"/>
	バッテリー	電解液の量を調べる。	<input type="checkbox"/>
		端子部の緩み及び腐食の有無を調べる。	<input type="checkbox"/>
	配線	接続部の緩みの有無を調べる。	<input type="checkbox"/>
		損傷の有無を調べる。	<input type="checkbox"/>